

No.15  
2003.3.20

# いしかわの遺跡

## 弥生時代後期の木製品



しらえかけはしがわ  
小松市白江梯川遺跡で出土した木製品の一部です。弥生時代後期の川跡に多数の木製品が埋まっていた。精巧な造りの高杯や当時も貴重だった水銀朱を塗った短剣の柄、容器の脚、盾や幾何学的な文様を持つ筒型容器が目を引きます。

財団法人 石川県埋蔵文化財センター

Ishikawa Archaeological Foundation

〒920-1336 石川県金沢市中戸町18番地1  
TEL 076-229-4477 FAX 076-229-3731  
E-mail mail@ishikawa-maibun.or.jp  
ホームページ <http://www.ishikawa-maibun.or.jp/>

## 平成14年度発掘調査から

# 白江梯川遺跡

しらえかけはしがわ

白江梯川遺跡は、小松市白江町地内にある弥生時代から中世の集落遺跡です。遺跡は白江町集落の北西側に位置し、梯川のすぐ横にあります。今回の発掘調査では、弥生時代後期の川跡を発見しました。

川跡は蛇行していたと思われ、東岸の深くなった所に2m程度の杭を何本も打ち込んでありました。その杭と川岸の間に多数の木製品が出土しました。木製品は、建物に使われていた板材の破片が殆どで、他に祭祀具や生活用具などがありました。

建物関係は、梯子と柱などがあり、柱を杭に転用しているものが多くありました。屋根飾りと思われる棒状の木製品がたくさん出土しました。祭祀具は、剣や槍のミニチュア、鞘、鳥形、琴などが出土しました。表紙の朱塗り柄は鉄製の剣を付けていたと思われ、盾は朱塗りをしてから黒漆を塗っていますが、裏は何も塗ってありません。ほかの朱塗り盾は表裏面とも朱が塗ってあります。容器の脚は朱に貝殻の粉を混ぜてややオレンジ色にしています。筒状の容器は、剣の鞘か矢を入れた容器と思われ、ほかに刀の鞘もあります。写真の琴は長さ150cmの長いものですが短いものもあります。

生活用具は、黒漆塗りの匙、縦杓子（未製品）、もみ 碇すくい、高杯、椀（未製品）、台付容器、指物容器、槽、桶、籠などの食事関連木製品、木包丁、鎌の柄、大足、鋤、泥除けなどの水田関連木製品、タモ、ヤスなどの狩猟関係のもの、鉄製斧の柄（縦斧・横斧）、横槌・よこづち 竪杵、たてぎね 紡錘車、ひきりうす 火鑽白などの生産関連木製品、アカトリ、櫂、船材（準構造船の側板3点）などの船関連木製品があります。

表紙にある木製高杯は、似たものが鳥取県青谷上寺地遺跡で出土しています。白江梯川遺跡出土の木製品から、当時の木工技術が山陰地方と深い交流のあったことが見えてきました。日本海をはるばる越えて山陰地方と小松周辺の人々が交流をしていたのでしょうか。



杭にひっかかった木製品



朱塗り盾と鉄斧の柄



台付容器と船の櫂（かい）



船の横板です。この船で日本海に漕ぎ出したのかな



大きな琴ですね

## 小杉遺跡

小杉遺跡は、江沼郡山中町小杉町地内に位置します。有名な山中温泉街を抜け、大聖寺川沿いにさかのぼること約11km、溪谷内の僅かな平地を利用して遺跡がつけられていました。ここは九谷ダム建設により水没してしまうこととなり、近年まであった集落も今は移転してしまいました。大聖寺川をさらに約2kmにさかのぼると、国指定史跡の九谷磁器窯跡、そして本年度発掘調査が行われている九谷A遺跡があります。

調査では、縄文時代の後期から晩期にかけて造られた建物跡や墓跡などが見つかっています。建物跡は竪穴建物とよばれる、地面に穴を掘って造られたものです。床では火をたいて焼けた、炉跡とみられる部分が確認されました。墓跡は配石墓といわれるもので、墓石として大小の石を並べたものが14基確認できました。出土遺物については、縄文人が日常的に使ったとみられる道具（土器・打製石斧・石皿・磨石など）、信仰にともなう道具（御物石器・石剣・土版）など、当時の生活・文化の一端がうかがえるものがたくさん見つかっています。



調査区を南から見た様子



3号配石墓



竪穴建物のピットの中から完形品の深鉢が出土しました



4号配石墓（上部）大小様々な石が並べられています



御物石器（ぎよぶつせっき）の出土状況



上部の石を取ると石組みが出ました

## 保存処理室 加賀郡<sup>ぼうじさつ</sup>勝示札の保存処理

平成12年、津幡町加茂遺跡から出土した加賀郡勝示札は（いしかわの遺跡 8参照）平成13年3月末から保存処理作業を開始し、平成14年7月に保存処理が終了しました。勝示札は本来、墨で字が書かれていたものですが、土に埋まっている間に墨がなくなって、文字の部分がわずかに浮かび上がって残っている状態で発見されました。そのため、処理中に勝示札が少しでも縮んだりすると文字が読めなくなる心配がありました。それで、約1年2ヶ月という長い時間をかけて、慎重かつていねいに作業を行いました。

加賀郡勝示札の保存処理には「真空凍結乾燥」という方法を採用しました。これは、対象物を凍らせてから乾燥させる方法で、乾燥させた時に収縮やゆがみが少ないという特徴があります。一般にはカップ麺の乾燥にも利用されています。その方法を簡単に説明しましょう。まず、初めに勝示札の中の水分をアルコールの一種と置き換えます。少しずつ薬液の濃度を上げていくのがコツです。この作業を前処理といい、10ヶ月間かかりました。それから、勝示札を「凍結乾燥」するため専用の機械にいれました。この時、機械の中の勝示札の変化が分かるように「ひずみゲージ」という特殊なセンサーを取り付けました。このセンサーによって、乾燥中に、勝示札が変形しないか24時間監視できる状態になりました。その後、本体を-40℃で凍らせて、機械の内部の空気を取り除き、勝示札の中のアルコールを「昇華<sup>しょうか</sup>」（個体から直接気体に変化すること）させて、乾燥しました。この乾燥が上手にできるかどうかで、処理の良し悪しが決定する最も大切な作業です。初日の夜は担当職員が徹夜で監視するなど、非常に神経を張り詰めた作業が2週間続きました。乾燥が終わった後は、機械の外の環境に慣れるように温度と湿度が調整された部屋で1ヶ月ほど保管しました。その後、表面に残った薬品などをきれいに取り除くと保存処理された「加賀郡勝示札」ができあがりしました。



前処理中の勝示札  
専用の容器に入っています



真空凍結乾燥機に取り付け  
この日は徹夜で状態を監視しました



最後の仕上げ  
表面をきれいにして完了



乾燥中の様子  
ひずみセンサーの線が何本もあります

## 加賀郡A示札の公開

平成12年に出土した加賀郡勝示札は、平成13年から1年以上を費やして当センターで保存処理を行いました。この保存処理の完了に合わせて、平成14年7月23日～29日の間、当センター展示室にて特別公開を行いました。また、同じ加茂遺跡から出土した県内初の人面墨書土器（津幡町教育委員会の調査で出土）和同開珎銀銭、墨書土器なども合わせて展示されました。公開初日の7月23日には保存処理の担当者による展示の説明があり、訪れた大勢の見学者や報道関係者に、保存処理の方法や苦勞した事などについて解説が行われました。27日には「加賀郡勝示札の保存処理について」と題した報告会も開催され、保存処理の詳しい説明や実際に使用した機械を見学しました。



展示風景



人面墨書土器



勝示札復元品



展示された勝示札



報告会での説明



使用機器を見学

## 加賀郡A示札のホームページ紹介

皆さんはもうすでに当センターのホームページ（<http://www.ishikawa-maibun.or.jp>）をご覧いただけただけでしょうか。加賀郡勝示札について、さらに詳しく知りたい方のために加賀郡勝示札についてのコンテンツが埋蔵文化財センターホームページ（いしかわの遺跡）にあります。トップにある勝示札の画像をクリックしていただくと、そのページにとぶことができます。ホームページ内には勝示札に書かれている内容について分かり易く解説してあります。また、その読み下し文を音声によって聞くこともできます。他にも、勝示札の出土した加茂遺跡についても詳しく知ることができますので、まだご覧になっていない方はぜひアクセスしてみてください。



トップページ

## 平成14年度 話題の遺跡講座

### 古代のななお - 地方の暮らし、都の暮らし -

富山大学教授 黒崎 直

平成15年2月2日(日)石川県立社会教育センター4階講堂にて「話題の遺跡講座」が催されました。今回は「古代のななお - 地方の暮らし、都の暮らし -」をテーマに古代における七尾地域の社会背景について富山大学の黒崎先生に講演していただきました。

古代の七尾湾岸には鹿島津<sup>かしまつ</sup>と呼ばれる大きな港があり、日本海域の交通・物流の拠点の地でありました。養老2年(718)能登国が立国し、承和10年(843)は能登国分寺が現在の七尾市内に建立されました。また、現在の県庁に相当する国府の場所については国分寺の近くにあると推定されており、古代の七尾は能登国の中心地として栄えていきました。

講座では、はじめに国分寺のこれまでの発掘成果、能登国府の推定地、鹿島津と小島西遺跡との関わり、大陸との交易など能登国の古代の様相についてお話しされました。この後、下野国<sup>しもつげ</sup>(栃木県)、肥前国<sup>ひぜん</sup>(佐賀県)など他の地方の政庁や平城宮跡(奈良県)の概要、都から出された大宝律令の内容など律令体制における都と地方との関係について述べられました。

今回のお話しで能登国における古代の政治情勢がいかに都と深い関わりをもっていたか改めて知ることができました。また、最後に平城宮跡の発掘調査風景や遺跡整備などのスライド説明があり、現在の宮跡の状況を伺うことができました。



黒崎 先生

### 発掘された古代の祭祀遺物

(財)石川県埋蔵文化財センター 大西 顕

今年度発掘調査した七尾市小島西遺跡から出土した大量の古代木製祭祀具<sup>さいしぐ</sup>についてお話ししました。小島西遺跡から見つかった祭祀具は約1,000点で、一箇所に集中していました。種類は斎串<sup>いぐし</sup>、人形、馬形、弓形、舟形、剣形で、このうちの大半は斎串であります。遺跡からは木製品の他に須恵器やイノシシの頭骨も見つかりました。

報告では、講座の日より一週間ほど前に終わったという遺跡の調査成果についてスライドを交えて紹介しました。



能登国分寺跡 復元された中門



小島西遺跡 大量に見つかった木製祭祀具

## 環日本海交流史研究集会

平成15年2月21日に環日本海交流史研究集会を行いました。これは、当財団の「環日本海文化交流史調査研究事業」の一環として行ったもので、平成12年度から実施してきました。平成12年度には各地方の歴史を学び、平成13年度には鉄をテーマに開催しました。そして翌日にはテーマに関する遺物の検討会も併せて行っています。

今年度は「玉をめぐる交流」と題して開催しました。参加者は130名ほどで、そのうち市町村職員や考古学研究者そして考古学に興味を持って勉強している一般の方々などが約半数を数え、休憩時間の合間にひさしぶりあった人との談笑など、研究集会の緊張した雰囲気とともに和やかな雰囲気もありました。

さて、日本海に面する道府県から9人の報告がありました。おもに弥生時代の玉の生産とその流通についての観点です。福井県の発表で玉の生産ははじめから流通を前提に作られたものではないという指摘があり会場に刺激を与えました。また石川県の状況から玉の生産と原材料産出地が密接にある可能性も指摘されました。そして流通には、人の動きを示す他地域からもたらされた出土品が暗示していることもわかりました。しかしながら、資料的な制約から東北地方はもう少し新しい時代を扱ったり、北海道地方は琥珀玉こはくだまを分析するなどの違いがありましたが、これらは長い日本列島の北から南まで同じ歴史をたどっていないということを示すものです。さらに、プログラムにはない韓国の玉作遺跡の発表も行われ、ようやく「環日本海」になりました。討論では、北陸等で作られた玉の流通のあり方について質問等があり、日本海沿岸地域の交流とのかかわりの中での位置付けの重要性もわかりました。当法人評議員の藤則雄先生の、「玉の移動の具体的な方法を明らかにすることがこれからの課題です」というまとめで閉会しました。

今後のテーマはまだ決まっていますが、来年も開催する予定です。ぜひ御参加ください。



発表者らによる討論の様子

## 来館者五万人達成

平成10年4月に新築移転したセンターが開館してからの来館者が、平成15年2月28日で5万人に達しました。5万人目となったのは、岡山大学文学部歴史文化学科に在学中の中村仁美さんでした。中村さんは大学で日本史を専攻しており、今回は同じ大学の皆さんと一緒に当センターの見学と資料調査のために訪れました。中村さんにはセンターの武田専務理事から縄文土器の複製品を記念品としてお贈りしました。



記念品贈呈

## 訪ねてみよう加賀・能登の遺跡

### 国指定史跡 あめ みや 雨の宮古墳群

鹿島郡鹿西町能登部上・西馬場の と べ か み に し ば ばに所在する国指定史跡・雨の宮古墳群は、眉丈山の尾根筋につくられた古墳群です。墳丘全体が葺石でおおわれた、北陸地方最大級の前方後方墳（1号墳）と前方後円墳（2号墳）を中心に、方墳、円墳など、全部で36基の古墳が点在しています。平成4年から発掘調査が行われ、現在は「ふるさと歴史の広場公園」として整備・復元されています。特に全長約64メートルの1号墳は、築造当時の葺石を露出展示するという全国的にも珍しい方法を採用しており、当時の姿を現在でも実感する事ができます。平成8年に1号墳を発掘調査したところ、その埋葬施設から神獸鏡や石釧・車輪石等の石製腕飾類・玉類・短甲・刀剣類が出土しました。これらの副葬品や発掘当時の埋葬施設の実物大模型を古墳の隣接地に建てられた展示施設「雨の宮能登王墓の館」で見ることができます。

古墳の頂上からの眺めはすばらしく、能登半島の山々や日本海を望むことができます。また、古墳群の隣には「雨の宮グリーン広場」があり、バーベキュー施設や遊具などが設置されています。これからの季節、森林浴を兼ねて、これらの古墳を訪ねてみてはいかがでしょうか。

1号墳全景



17号墳



1号墳粘土槨の模型

交通：JR能登部駅より車で10分

所在地：鹿島郡鹿西町能登部上・西馬場

問い合わせ：鹿西町教育委員会 教育文化課 電話 0767 - 72 - 4555